

Takashi AKIYAMA Poster Museum Nagaoka

2011-05-15

APM news 035

秋山孝ポスター美術館 長岡

歴史的建造物・金庫扉と雁木のある美術館 (旧北越銀行宮内支店)



〒940-1106 新潟県長岡市宮内2-10-8
TEL 0258-39-1233

第10回美術館大学 4月16日(土) pm3:00~4:30/受講者:46名

「メキシコのポスター世界」 鼎談:U.G.サトー×リンダ・リトー×秋山孝



今年度最初の展覧会は、メキシコ革命100年・独立200年を記念して作成されたポスターを展示した「Voices in Freedom展」 in 長岡である。今回の美術館大学は、U.G.サトー氏とリンダ・リトー氏をお招きして秋山館長と「メキシコのポスター世界」というテーマで鼎談していただいた。「Voices in Freedom展」 in 長岡でAPMに展示してある作品は60点。その中には3名の作品もある。リンダ・リトー氏の作品は日本画風に描かれた二羽の鶏。昨今の鳥インフルエンザ問題などもあり、鳥には自由のないイメージがあったため、題材として用いたという。一方、秋山館長の作成した今回の展覧会ポスターは、メキシコ革命の英雄エミリアーノ・サバタがモチーフ。武器を持たず、親指を立てる英雄の姿に、平和な時代がやってきたことを感じる。

ポスターアートについてのお話は興味深い。U.G.サトー氏は、「メッセージを明確に伝えることができる。ビジュアルに訴えることで一目瞭然」とポスターの特性を述べる。それに対し、リンダ・リトー氏は「ポスターにとりつかれた一人として、死ぬまで創り続けたい」とポスターへの熱意を語った。また、U.G.サトー氏は「ポスターにはユーモアを入れたい」と言っていたが、今回の秋山館長の展覧会ポスターのサバタの帽子は、よく見るとメキシコの地図になっているのに気づいたのだろうか。これこそユーモアであろう。質疑応答の時間は、三者三様の答えがあり面白い。「ポスターのどこがそんなに魅力なのか」という質問には、「自分の伝えたものを煮詰めて表現することの面白さ、少しでも面白くしようと七転八倒する」(U.G.サトー氏)、「ポスターが受け入れられる時代なのだと思う。ポスターというメディアが100年後に残っているかわからないが、40歳になってますます創りたいと思っている」(リンダ・リトー氏)、「日本画、洋画のスタイルを受け入れられなかった。ポスターの薄さや軽さが自分には合っていた」(秋山先生)。今回の美術館大学では、秋山館長とその「友人」であり「仲間」であるお二方との鼎談だった。旧知の間柄ということもあり、会場は終始和やかな雰囲気に包まれていた。今年度の始まりにふさわしい、すばらしい美術館大学だった。

(森山奈帆・APM職員) APM公式ホームページより抜粋



左から、U.G.サトー、長岡造形大学上山良子学長、秋山孝、リンダ・リトー